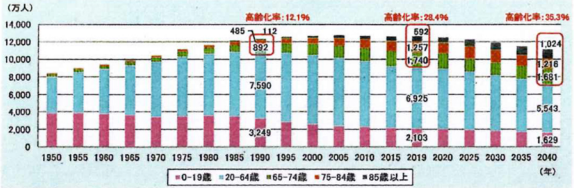
人生100年時代の健康管理

桐生大学・桐生大学短期大学部副学長　山科 章

【プロフィル】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科大学循環器内科主任教授。2020年5月から現職。総合内科専門医、日本循環器学会専門医、前日本循環器病予防学会理事長。

⑦「人口変動は巨大タンカー」



これは、2019年7月23日の朝日新聞の記事のタイトルです。タイトルを見ただけでは何のことだろうと思いましたが、読んでいるうちになるほどと思いました。1人乗りのカヌーボートは自由自在に方向転換できますが、巨大タンカーがいったんスピードに乗って走だすと、すぐには止まれませんし、方向転換もできません。わが国の人口変動は巨大タンカーと同じだというのです。

わが国の人口変動の特徴は何といっても少子高齢化です。これまで、紹介してきましたように、高齢者は増え続けていますが、一方で、出生数減少は止まりません。日本人の出生数は、前回紹介しましたように1947～49年生まれの団塊の世代は約270万人でした。53年からは100万人台で推移し、71～74年に生まれた団塊ジュニアの時期に200万人台に回復しましたが、その後は一貫して減り続け、2016年に97・7万人と初めて100万人を下回りました。

その後も減り続け、19年には86・5万人でした。一方で、死亡者数は増え続けており、19年の死亡者数は138・1万人であり、51・2万人の人口減でした。この数は鳥取県の人口に相当します。

これから先、当分の間、これ以上の人口減が続くのです。

先週、2025年問題を紹介しましたが、次の大きな問題は40年といわれています。40年には団塊の世代の全員が90歳を超えるからです。図のように、この頃には高齢化率は35%を超えると推定されています。

急に巨大タンカーのスクリューを反転させても、この人口変動に歯止めはかかりません。現役世代がいかに元気に過ごし続けるかが大きな課題になるのではないでしょうか。

次回は「磯野波平さんは何歳?」です。

2020年版厚生労働白書 令和時代の社会保障と働き方を考える―から引用

◆毎週月曜連載　桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部の学生などに講義も開講している。

保健・福祉

「ツ

桐

加す

推進

とみ

いた

uT

ブ

lu

で配

同

学

が有

学生

推進

疾病名	3週前	2週前	1週前	今週の